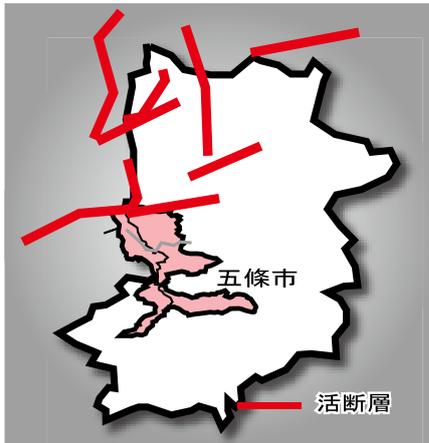


地震災害に備えて



平成7年1月17日、阪神淡路大震災が発生しました。6千人を超える人が亡くなり、前触れもなく起こる地震災害の恐ろしさを日本中が思い知らされました。それから現在までの10年余りの間にも、負傷者を出した地震は日本国内だけで104回も発生しています。幸い五條市では近年大きな地震被害はありません。しかし奈良県全域は近い将来発生すると言われていて、東南海・南海地震の防災対策推進地域に指定されています。また発生の確率は低いと予測されていますが、奈良県内および奈良県周辺には直下型地震を引きおこす活断層が多数存在します。

地震の発生を予測することはできません。いつ起こるか分からない地震に対して我々はどのように備えればよいのでしょうか。

五條市では毎年7月の第1土曜日に防災訓練を実施し、防災関係団体と共に大規模災害に備えています。

本年度も7月5日、吉野川河川敷で五條市防災訓練が開催されました。

訓練では、午前8時00分に紀伊水道沖を震源とする震度6強を記録する地震が発生した状況を想定し、被害情報の収集や避難所の開設、けが人の応急措置、さらには大規模火災の発生を想定し消防団による消火訓練を実施しました。

消防本部、消防団、赤十字奉仕団、自衛隊、奈良県防災航空隊、奈良県警、五條病院、五條土木事務所など、多数の関係機関が日頃の訓練の成果を発揮し、被害想定に迅速に対応しました。



しかし阪神淡路大震災を振り返ると、1月17日早朝の地震発生当日の午前中に4,461人(全被害者の約81%)、当日の午後を合わせると5,175人(約94%)と、ほとんどの犠牲者が地震当日に死亡しました。大規模災害で道路が寸断し、電話などの通信手段がぶくそうした場合、過去の震災と同様に、防災関係機関の救助や復旧は数日後となり、救助が間に合わない可能性が高いと考えられます。

そのため災害の被害を軽減するためには、「自助、共助、公助」が重要であると言われてます。第一に「自助」は自分の命を自分で守ること。第二に「共助」とは家族や隣近所を助け、お互いを守ること。第三に「公助」は行政が個人や地域を支援したり、自助・共助では解決できない仕事をすると言われてます。

1. 自助 2. 共助 3. 公助